

鎌倉市市民向け危機管理講座（2017年11月9日）

最近の北朝鮮情勢について

倉田 秀也
（防衛大学校）

I. はじめに：核ミサイル開発の合理性

(1) 北朝鮮の戦略的優劣

- ・核戦力：対米軍劣位
- ・通常兵力：対米韓連合軍劣位
- ・生物化学兵器：対米韓優位
- ・非正規戦：対米韓優位

(2) 「戦時」における抑止対象

- ・対米韓連合軍：通常兵力(ロケット砲)
- ・対在日米軍：アンダーセン空軍基地：中距離核ミサイル
- ・対米本土：大陸間弾道ミサイル(ICBM)

Ⅱ. 核戦力の二面性：破壊力と命中精度

(1) 萌芽期の核態勢：最小限抑止

- ・第1撃の回避：核先制不使用(NFU)
——「絶対に核を先に使用しない」(外務省声明、06年10月3日)
- ・残存する第2撃能力：サイロ・移動式発射台・SLBM
- ・対価値攻撃：破壊力 > 命中精度

(2) 核ミサイル能力の進展：「戦時」における基地攻撃

- ・米軍来援の拒否：遠方の米軍基地使用への威嚇
- ・「核先制打撃」：NFUからの逆行
- ・対兵力攻撃：破壊力 < 命中精度

Ⅲ. 二つの戦略の提示：破壊力と命中精度

(1) 金正日の死と金正恩の「政策見直し」

- ・「核問題の全面的見直し」(12年7月20日)

(2) 金正日演説(朝鮮労働党中央委総会、13年3月31日)

- ・経済建設と核武力建設の「並進路線」
- ・「人民軍は、戦争抑制戦略と戦争遂行戦略の全ての面で核武力の中枢の役割を高めて核武力の恒常的な戦闘準備大勢を完備しなければなりません」
 - 「戦争抑制戦略」：第一撃阻止
 - 「戦争遂行戦略」：米軍介入阻止

IV. 相反する金正恩発言

(1) 「戦争抑制戦略」としての NFU

- ・金正恩総括報告(朝鮮労働党第7回党大会、16年5月7日)
——「敵対勢力が核でわれわれの自主権を侵害しない限り、先に核兵器を使用しない」

(2) 「戦争遂行戦略」としての「核先制打撃」

- ・最高人民会議法令(13年4月1日)第4条(核使用)
「敵対的な他の核保有国がわが共和国を侵略したり攻撃した場合、それを撃退し報復を加えるため…」
- ・「先制的核打撃能力を持続的に拡大・強化しなければならない」
(13年6月23日)

V. おわりに：北朝鮮核使用の条件

(1) 米国による先制攻撃

- ・ICBM実戦配備阻止
- ・北朝鮮による対韓・対日反撃(対価値攻撃)

(2) 局地紛争からのエスカレーション

- ・ICBM実戦配備：米国の軍事介入阻止
- ・「天安」沈没／延坪島砲撃以上の烈度

(3) 北朝鮮の内部崩壊

- ・管理不能な核？
- ・不合理な核使用